

行動障害がある人への
身体拘束・抑制を減少させるためのアプローチ

井上雅彦

鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座

行動障害と虐待をテーマにした 研修の目的

1. 特に身体拘束とそのガイドラインについての理解
 2. 「身体拘束の廃止」のために「行動障害への適切な対応」の重要性に理解
 3. 「行動障害へのアプローチ」に対する機能分析による対応方法の理解
- 地域での研修を行う場合「講師候補リスト」をご活用下さい

身体拘束の例

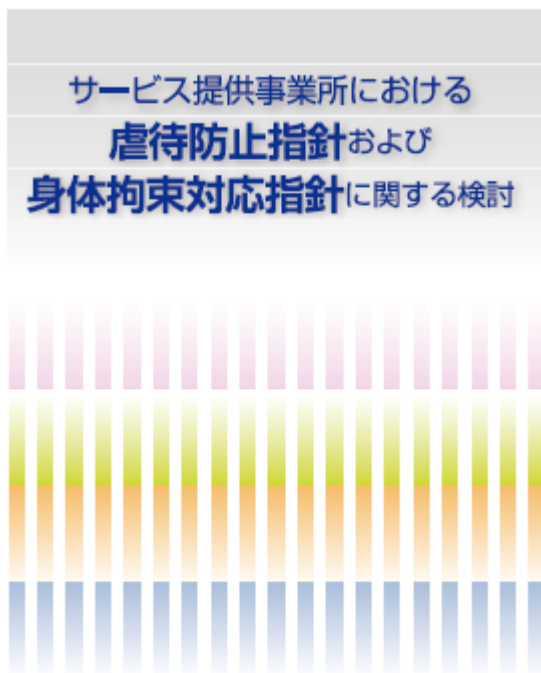
- 車イスやベットなどに縛り付ける。
 - 手や指の機能を制限するために、ミトン型の手袋を付ける。
 - 行動を制限するために、介護衣(つなぎ服)を着せる。
 - 支援者が自分の身体で利用者を押さえつけて行動を制限する。
 - 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。
 - 自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。
-
- 実施行為が、身体拘束に該当するか否か判断するのは、実施しようとする職員の主観的な判断ではなく、利用者、家族、第三者が判断

やむを得ず身体拘束等を行う場合の要件

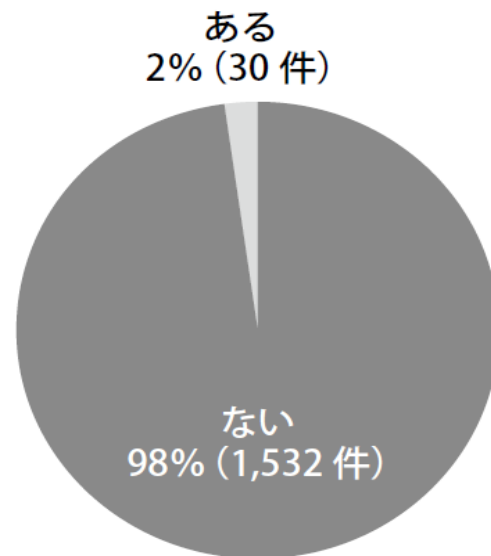
- 3つが該当することであるが慎重な判断が必要
- 切迫性
 - 本人、他の利用者等の生命等に危険が及ぶ可能性が著しく高い
- 非代替性
 - 他の方法によることができない
- 一時性
 - 身体拘束その他の行動制限が一時的なものである
- 個別の支援計画・行動支援計画の作成と活用
 - 状況
 - 具体的方法
 - 1回あたりの使用時間
 - 本人に対する利益
 - 最も制約の低い方法であることの根拠

障害のある人に対する身体拘束について

- 「障害者施設における支援のあり方と身体拘束に関する調査 (NPO法人PandA-J 2011)」
- PandA-Jホームページから入手可能
- 福祉サービス事業所5763へ送付, 1612件回収



1 ベットから転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。



「ある」と答えた人の回答理由（複数回答可） (件)

利用者の安全配慮	26
他害行為の防止	1
医師による指示	12
職員配置の不足	2
その他	3

虐待と思うかどうか？

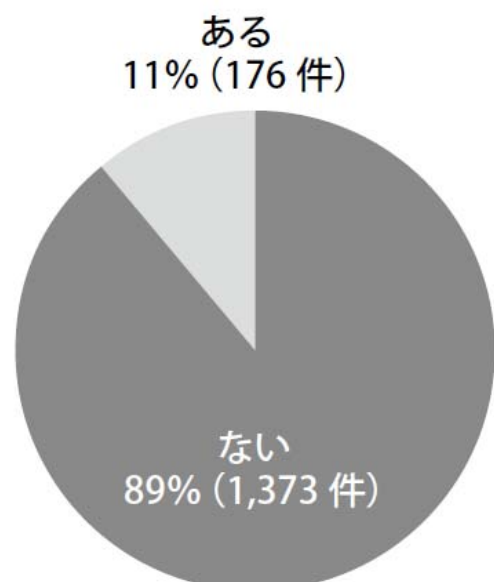
1 ベットから転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。



思わない理由

- 安全のために必要なことがある
- 職員不足から（夜間）
- 家族等の合意承諾を得られればやむを得ないと思われる

4 自分で降りられないように、ベッドを柵（サイドレール）で囲む。



虐待と思うかどうか？

抑制レベルが低いものが実施されやすい

「ある」と答えた人の回答理由（複数回答可） (件)

利用者の安全配慮	165
他害行為の防止	4
医師による指示	6
職員配置の不足	5
その他	8

抑制レベルが低いものは拘束意識は低くなる

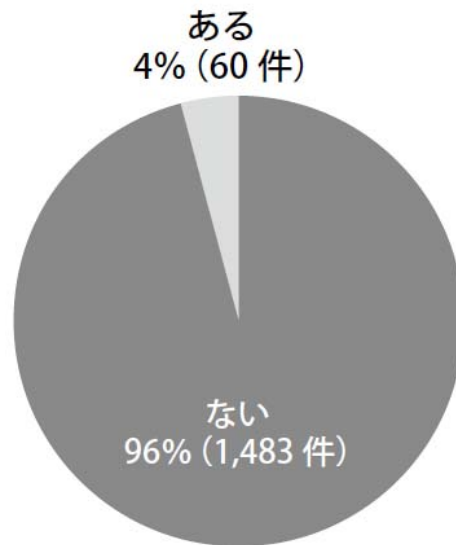
4 自分で降りられないように、ベッドを柵（サイドレール）で囲む。



思わない理由

- 24 時間職員が見守ることが出来ない
- 許容範囲内と思う
- ケガ等心配で仕方ない

5 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひも等で縛る。

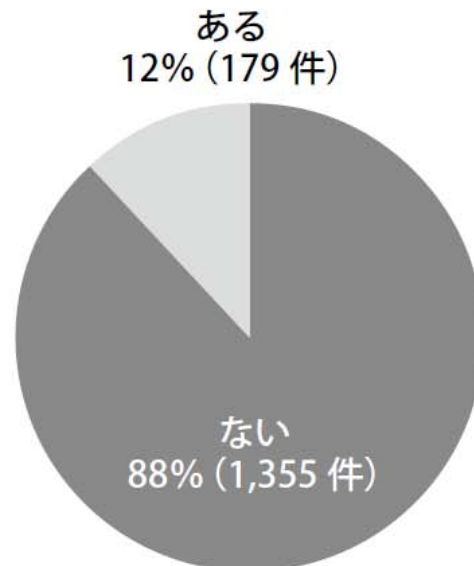


「ある」と答えた人の回答理由（複数回答可） (件)

利用者の安全配慮	48
他害行為の防止	0
医師による指示	24
職員配置の不足	6
その他	3

抑制レベルが低いものが実施されやすい

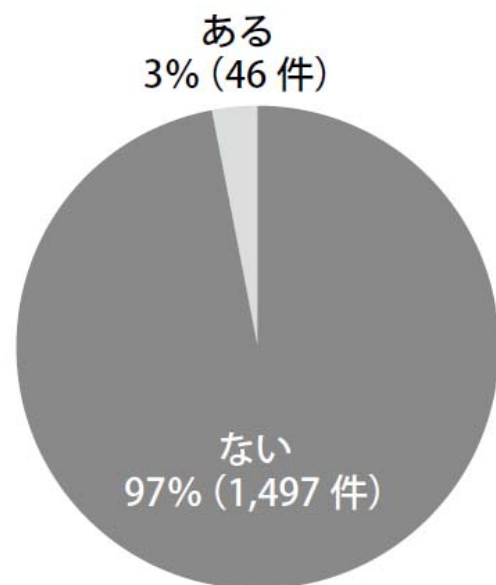
6 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、又は皮膚をかきむしったり、自傷しないように手指の機能を制限するミノ型の手袋等を着用する。



「ある」と答えた人の回答理由（複数回答可） (件)

利用者の安全配慮	154
他害行為の防止	11
医師による指示	30
職員配置の不足	15
その他	14

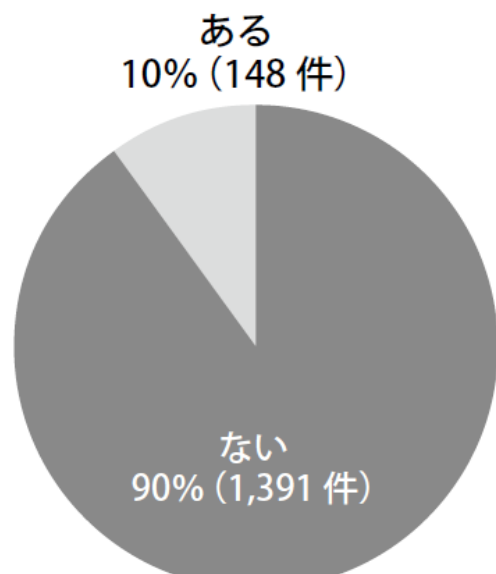
10 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。



「ある」と答えた人の回答理由 (件)

利用者の安全配慮	20
他害行為の防止	18
医師による指示	35
職員配置の不足	5
その他	3

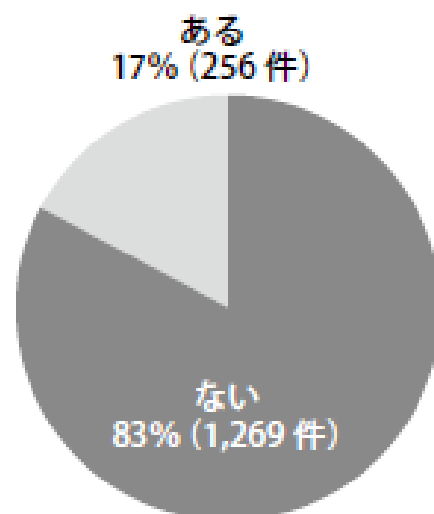
11 本人が外に出ないように、自分の意思で開けることのできない居室等に隔離する。



「ある」と答えた人の回答理由 (件)

利用者の安全配慮	110
他害行為の防止	77
医師による指示	29
職員配置の不足	38
その他	19

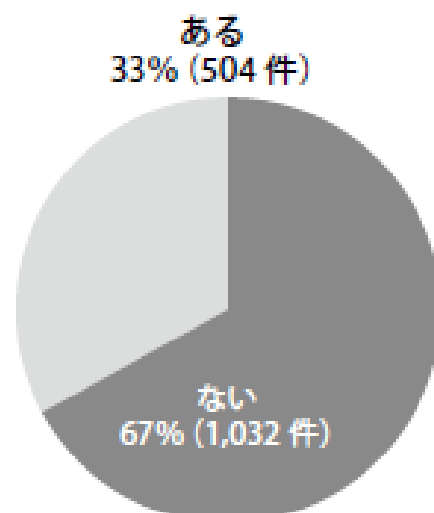
19 場所の移動など、無理やり手を引っ張るような本人が嫌がる対応をする。



「ある」と答えた人の回答理由 (複数回答可) (件)

利用者の安全配慮	169
他害行為の防止	51
医師による指示	1
職員配置の不足	21
その他	66

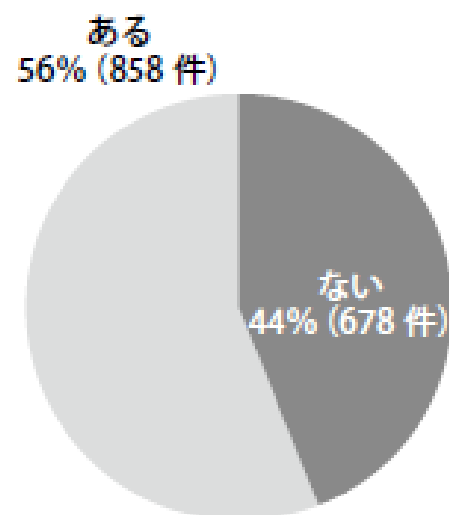
20 本人を落ち着かせるために、クールダウン・タイムアウト室 (無施設) へ移動させる支援方法を行っている。



「ある」と答えた人の回答理由 (複数回答可) (件)

利用者の安全配慮	383
他害行為の防止	282
医師による指示	19
職員配置の不足	14
その他	36

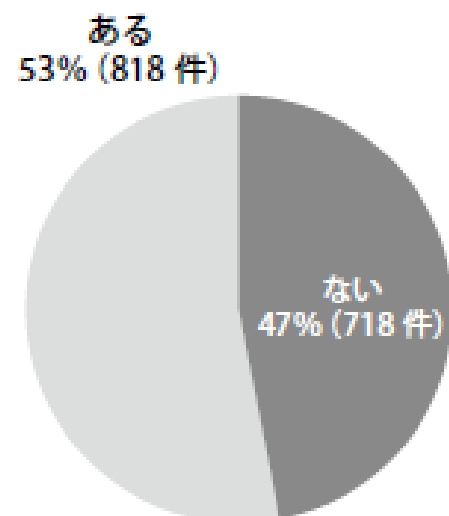
- 13 周囲の人に殴る・噛み付く・ける・つばをかける・髪を引っ張る等の他害を一時的に職員
の体で制止する。



「ある」と答えた人の回答理由 (複数回答可) (件)

利用者の安全配慮	680
他害行為の防止	642
医師による指示	13
職員配置の不足	9
その他	6

- 14 採血など健康診断において体や腕を一時的に抑える。



「ある」と答えた人の回答理由 (複数回答可) (件)

利用者の安全配慮	691
他害行為の防止	34
医師による指示	284
職員配置の不足	3
その他	46

虐待と思うかどうか？

- ❶ 頭を柱に強くぶつける、自らの体を激しく傷つけるなどの自傷を一時的に職員の体で制止する。



思わない理由

- 緊急対応として必要
- 自傷・他害の場合はやむを得ない
- 職員安全確保
- 放任こそ虐待

- ❷ 周囲の人に殴る・噛み付く・ける・つばをかける・髪を引っ張る等の他害を一時的に職員の体で制止する。



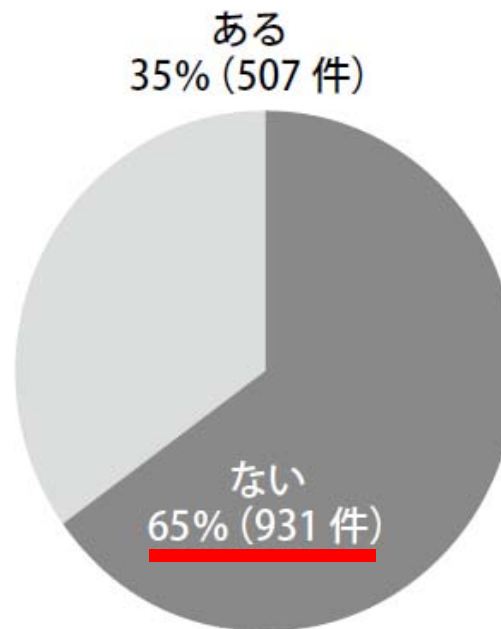
思わない理由

- 当たり前
- 安全配慮、他害防止のため

「一時的にはやむを得ない」という視点に留まっている可能性
拘束のきっかけとなる「自傷・他害をしなくてよくなる支援」へ向かうことが必要

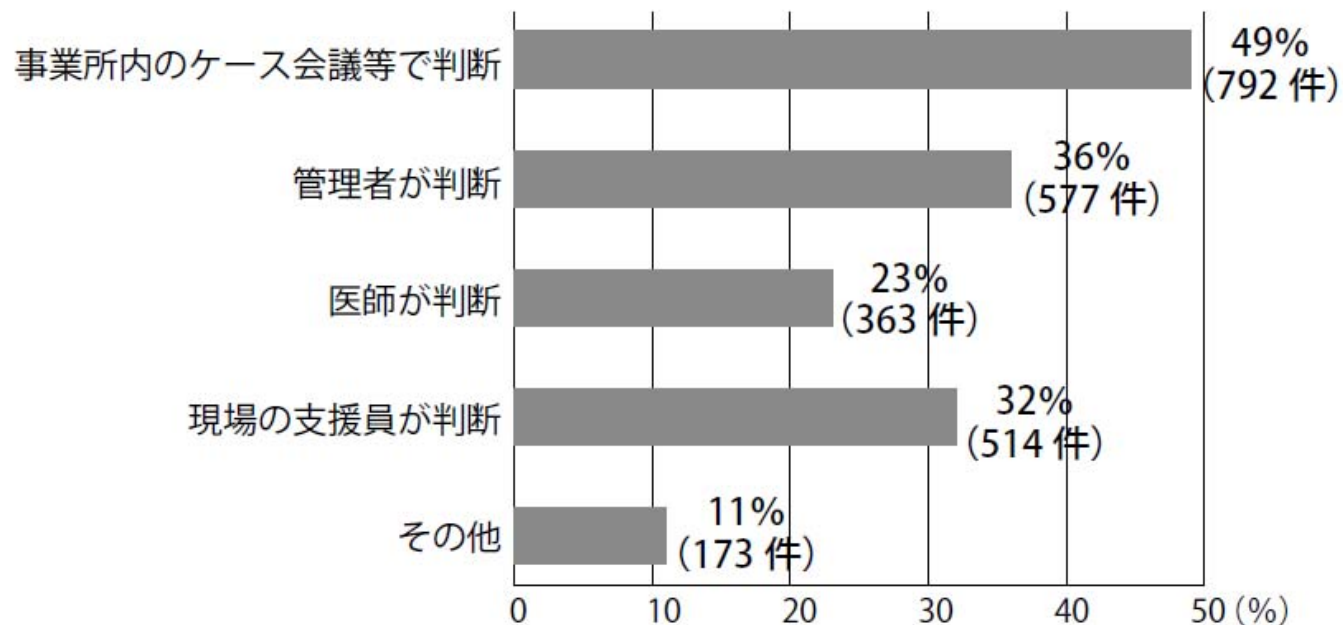
対応手続きの明確化が必要

- 1** 身体拘束を行う場合の手続等について明確に定める規程（マニュアル、ガイドライン等）がありますか？



判断の実際

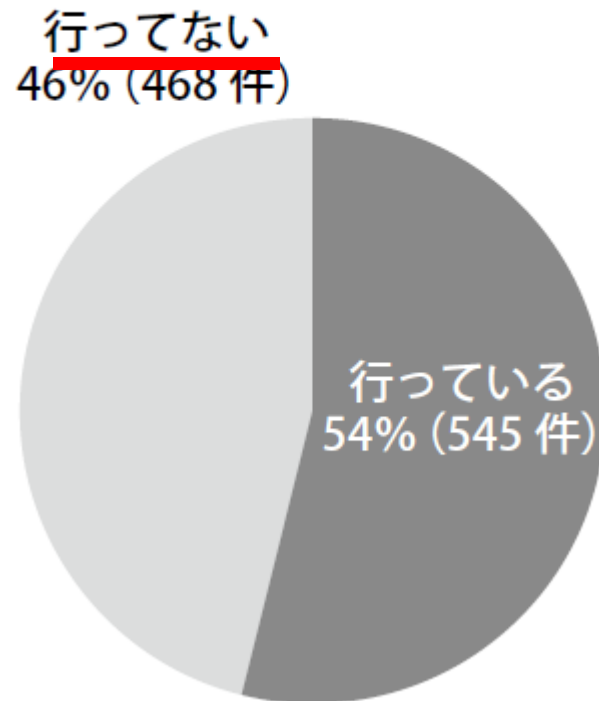
- 5** あなたの事業所では拘束する際の判断についてどのようにしていますか。あてはまるものすべてをお答えください。



緊急的な判断と事後判断という階層的なシステムを

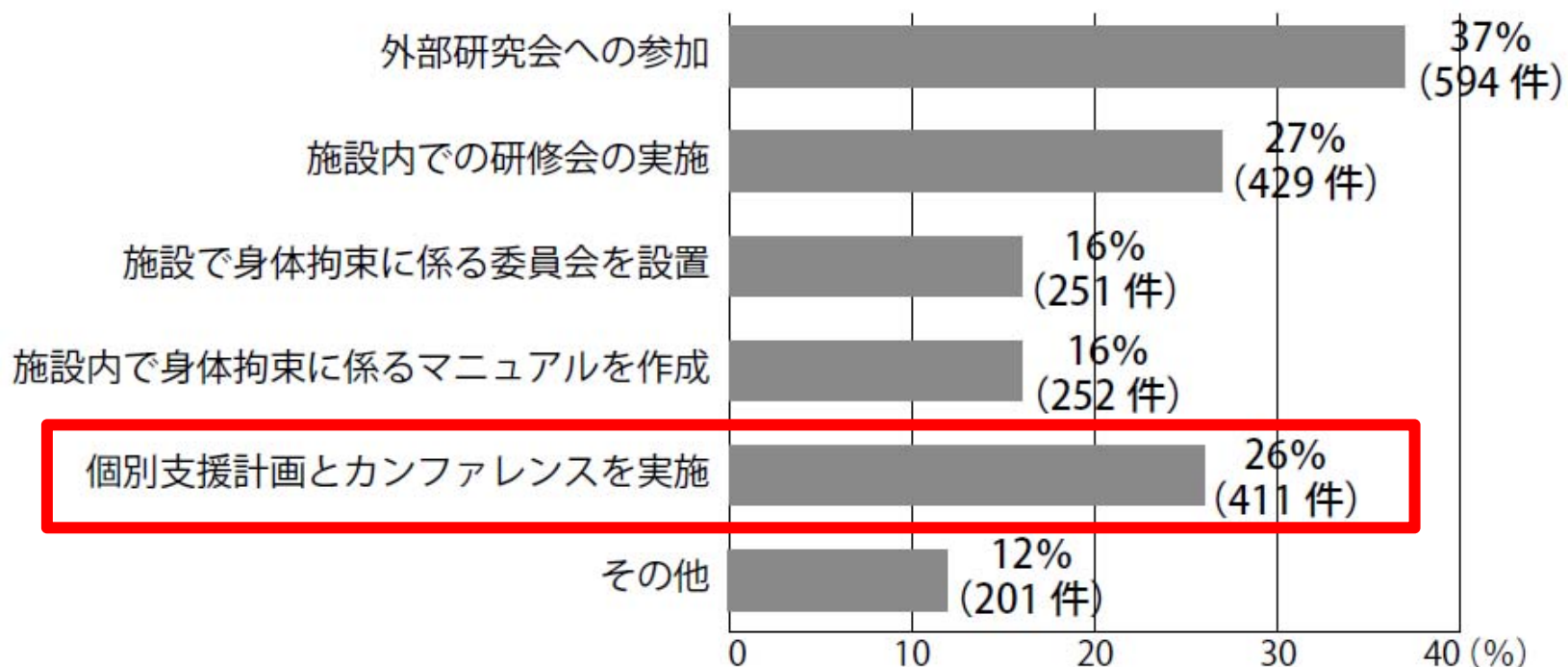
身体拘束の廃止意識は？

1 【身体拘束廃止に向けた取組み】は行っていますか？



個別の対応はまだ不十分

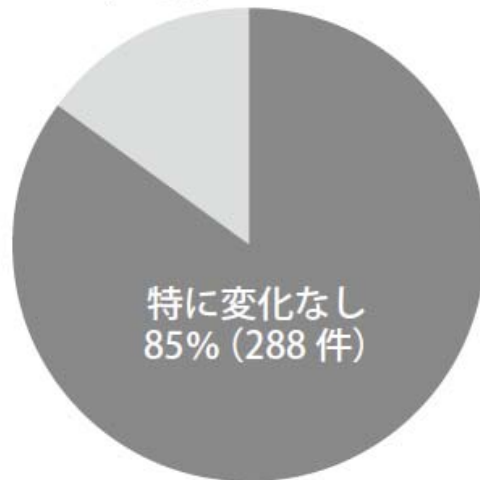
【身体拘束廃止に向けた取組み】の具体的内容はどのようなものですか？あてはまるものすべてをお教え下さい。



廃止後のプラスの変化をめざす

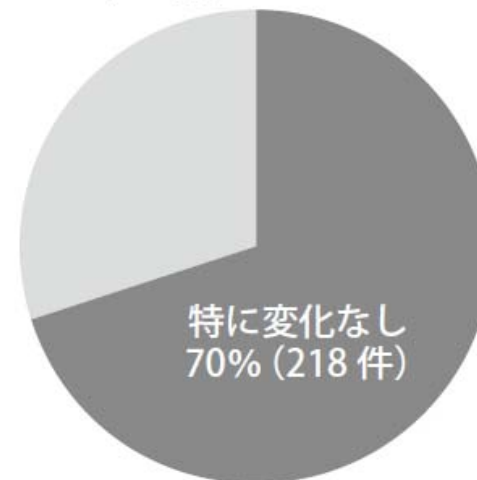
8 廃止後の利用者の変化については、どうですか？

変化が見られた
15% (51 件)



9 廃止後の職員意識の変化については、どうですか？

変化が見られた
30% (92 件)



身体拘束の抑制

Williams(2010) Reducing and eliminating restraint of people with developmental disabilities and severe behavior disorders :An overview of recent research *Research in Developmental Disabilities* 31, 1142–1148

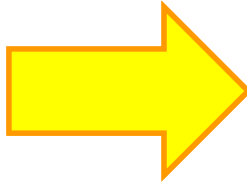
- 1999年から2009年の文献を調査分析
- Restraint fading
- Staff training
- Assessment and modification of antecedent conditions
- Modification of the release criteria from restraint
- Successful behavior treatment

- 拘束は減少できることが証明されている
- 短い拘束時間と問題行動が生じていない時の強化
- 問題行動が生じる前の環境条件を整備する
- 応用行動分析 機能分析の導入

行動障害と虐待

支援者を感情的にしてしまう行動 対応法がわからない(何度言ってもきかない)

他傷他害
破壊
支援の拒否
自傷
飛び出し
反芻
便いじり
など



身体的虐待
心理的虐待

行動障害の理解と対応の方法を知ること
職員や家族が共通理解して実践すること

「行動障害」の考え方

- ①水をひたすら要求する自閉症のAさんがいます。
 - 「水を飲みたいのは本人の意志であるので、止める必要はないのでしょうか？」
- ②このような「こだわり行動」は「自閉症だから」起こるのでしょうか？
 - 「自閉症」は治らないので「こだわり行動」も治らないのでしょうか？
- ③「行動障害」に関して理解して支援するとはいったい何に対して、どうすることなんでしょうか？

行動障害への支援のゴールは

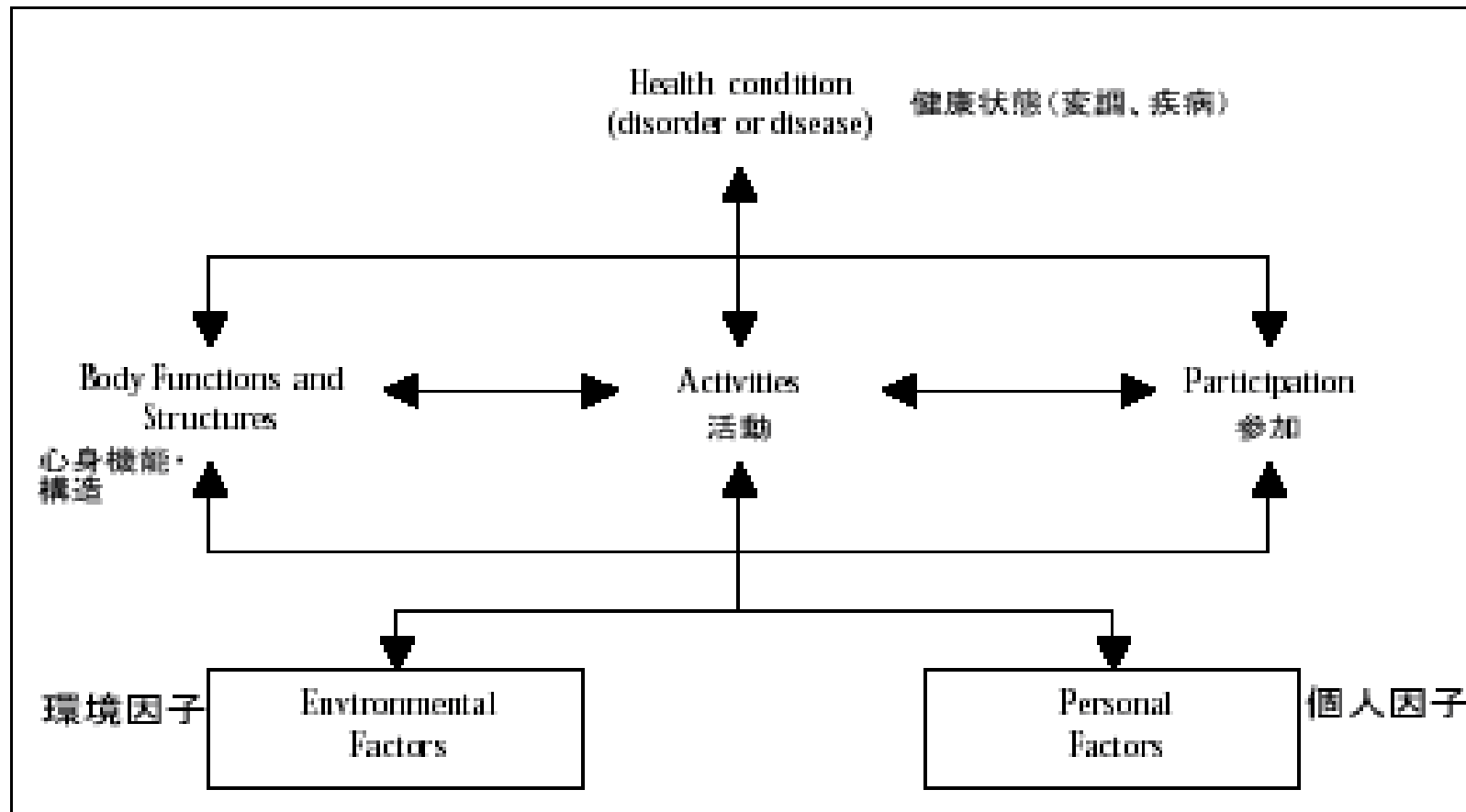
薬をかなり増量した結果、Aさんの飲水行動は落ち着きましたが、おしゃべりをしなくなり、指示がなければ一日中じっと座っていることが多くなりました。

- その行動をなくすだけではなく、その人の「生活の質」が向上すること
- 「生活の質」が向上するとは？

生活環境の中でその人の行動の選択肢が増加し、自己決定の機会が与えられていること

なぜ行動は生じるのか？

- 行動の原因を障害特性のみに帰着させてよいのか？
- WHO「国際生活機能分類ICF」による障害の定義
(International Classification of Functioning, Disability and Health)



多くの行動障害は学習された行動である

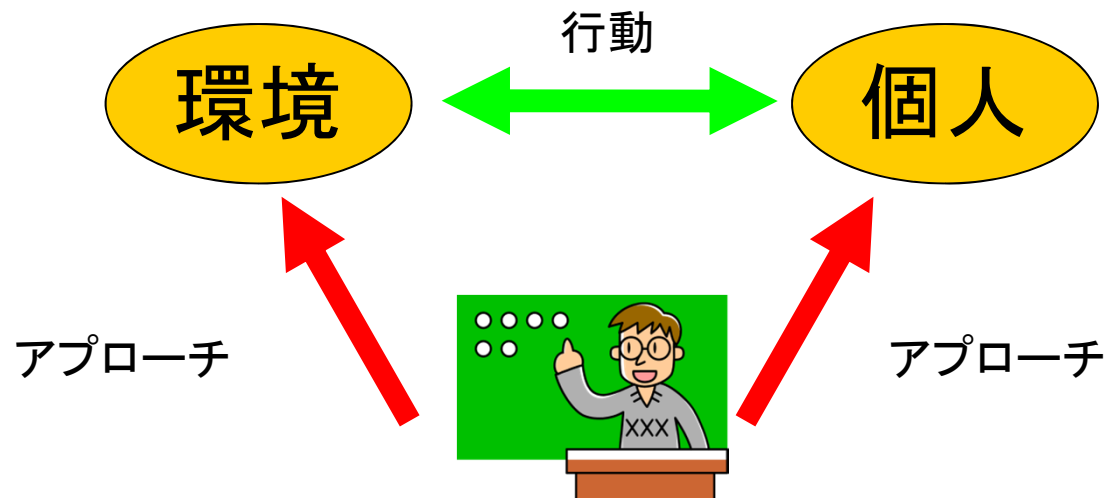
	1歳6ヶ月より前	1歳6ヶ月	3歳ころ	幼稚園・保育園に入るまで	幼稚園・保育園での様子	就学直後	小1後半	小2～小3	小学校高学年	中学校進学直後	中学校3年間	高校進学直後	シヨートステイ	（シヨートステイ）施設入所	（一般棟）施設入所	重度棟入所直後～4ヶ月	重度棟入所4ヶ月～1年4ヶ月	4ヶ月～2年4ヶ月	重度棟入所1年4ヶ月～2年4ヶ月
自傷																			
他害																			
こだわり																			
物壊し																			
睡眠																			
食事																			
排泄																			
多動																			
騒がしさ																			
パニック																			
粗悪さ																			

 …強度ではないが問題がみられる
  …強度の問題行動

井上雅彦(2009)強度行動障害の評価尺度と支援手法に関する研究
厚生労働省 研究報告書

「障害」から行動へ

- 我々は現時点で「自閉症」を治す手立ては持ち得ない
- しかし、特定の行動を変えていくことは不可能ではない



求められる支援者側の倫理として 現時点で最も効果の高いアプローチを使うこと

- エビデンスベース(科学的根拠にもとづいた)アプローチを
- 対象者にあわせて
- 適切なアセスメントに基づいて
- 環境調整と代替りになる適切な行動を教えること
- 抑制的手続きを使用する場合は最小限にして実施すること
- 行動の記録をとることによって
- 支援がフィッティングしているか否かは明確になる

米国国立保健機構 National Institute of Health



Treatment of Destructive Behaviors in Persons With Developmental Disabilities

National Institutes of Health
Consensus Development Conference Statement
September 11-13, 1989



重篤な破壊・自傷・攻撃行動に対しては**行動的介入、薬物療法、環境の改善、教育**などを複合させることが重要
望ましい行動を促進し、行動問題を低減するための機能分析が重要なステップ

スタッフトレーニングの有効性

- Allen, McDonald, Dunn, and Doyle(1997)
- Singh et al.(2009)
- Sanders(2009)など
- 行動障害に対する機能分析によるアプローチ
 - 身体的拘束の使用の減少
 - 雇用者の怪我の減少

強度行動障害に関する スタッフ・トレーニングの効果

Kato, Ida & Inoue(2013) Ida, Kato & Inoue(2013)

- 強度行動障害のある人の支援者研修について機能分析(Functional Analysis)に基づくプログラムを開発し、その効果を検証した。
- 5回の研修により、参加者の知識、行動障害において統計的に有意な改善が見られた。

スタッフ

- 講師
- 大学教員1名
- スーパーバイザー
- 強度行動障害の臨床経験8年以上の入所支援施設および障害児入所施設の職員3名
- 補助スタッフ
- 各グループに臨床心理学を専攻している大学院生が参加した。

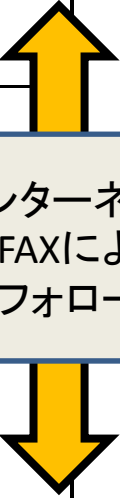
研修参加者の募集方法

- 県委託の研修事業として企画され、募集は3名のスーパーバイザーの所属する施設職員を含め、主要な障害者施設及び医療機関に案内を送付した。
- 参加条件は、1年以上の行動障害についての臨床経験を有し、研修プログラムに3分の2以上参加可能であること、本研究の趣旨を理解し、同意できるものとした。

研修スケジュール

表3 研修スケジュール

回	時期	内容
1	2012年 7月上旬	オリエンテーション 講義(210分) 行動障害について(60分) 行動障害に対するアセスメントの基本(90分) 事例から学ぶ機能分析によるアプローチ(60分) グループ演習 ※講義については、公開講座
2	2012年 7月下旬	講義(40分) グループ演習(90分) 強度行動障害のある子どもを持つ家族の思い(60分)
3	2012年 8月上旬	講義 グループ演習
4	2012年 8月下旬	講義 グループ演習
5	2012年 12月上旬	講義 実践報告 修了式 ※講義および実践報告は、公開講座



インターネット
とFAXによる
フォロー

アプローチをする前に考えること

- 問題性を定義し共通理解する
 - その行動は誰にとってどのように問題なのか？
- 行動を具体化する
- 行動の記録をとる
- 優先順位を考え目標とする行動を絞る
- 行動のきっかけを探る
- 行動を維持している結果について考える

判断の基準

- 周囲の人やその利益を脅かす場合
 - 自分自身を傷つけてしまう場合
 - これに加えて
 - 社会参加の機会を失うような場合
 - 新しい学習やすでに学んだことを妨げる場合
-
- 「問題行動」にもいろいろなレベルがあります
 - 「問題行動」かどうかという判断は個別的になされる必要があります

具体化することでのメリット

- 問題となる行動がチームで共有できる
- 正確な記録ができる
- 行動の変化が正確に把握できる
 - 例えば「離席する」といってもいろいろな離席があります。いくつか考えてみてください。
 - ()
 - ()
 - ()

行動を具体的に記述するためのコツ

- 「～しない」という否定形で終わらない
 - 「指示に従わない」→「指示に従わないで遊び続ける」
- 抽象的な表現を避ける
 - 「自分勝手」→「人の物を勝手に取る」

行動の記録をとる

- エピソード記録では

- 「昼休みに絵美ちゃんを突き飛ばして泣かせた。体育のドッチボールで武君と言い争いになり、そこにいたおとなしい悟君に対して八つ当たりをして、、、」
- 書きやすいが長くなる。きっかけや結果がわかりにくい。主観的になりやすい。書いた人によって変わる

- 機能的行動記録

- 「きっかけ」「具体的な行動」「結果」が明確
- 節約的な記録が可能



初期段階での記録用紙の例 2週間程度記録する

研究室HPよりダウンロード可能

行 動 観 察 シ ー ト

月 日 ()

No _____

対象児名 _____

観察者名 _____

時 間	どんなときに	行 動	どう対処したか

優先順位を考え目標行動を絞る

- 緊急性が高いもの
- 回数が多いもの
- きっかけ(時間・場所・人)が明確なもの
 - 指導者が存在する場面で起こるもの
- 大声→制止→他傷など行動が連鎖化している場合はその最初の行動を優先する

スキャター・プロットによる整理

いつ、その行動が起こるか予測しやすくなる

行動頻度観察シート 記入例

観察日時 ○月 ×日 ～ ○月 △日

対象児名（仮名で結構です）

観察者名（実名をお願いします。）

行 動

友達に暴力をふるう（叩く、ける、かむ）

乱打は1回と数える

※ふるおうとして、教師が止めた場合も1回と数える。

	月	火	水	木	金	土
始業前	1	1				
1校時				1		
休み時間				1		
2校時	2					
休み時間	1					
3校時						

介入段階での記録用紙の
例 2週間程度記録する

井上研究室HPよりダウンロード可能

事例の概要

対象者のプロフィール	
年齢	30代
性別	女
診断	自閉症、知的障害 (PEP-R: 発達1歳8ヶ月、芽生え2歳7ヶ月)
療育手帳	A判定
障害程度区分	区分6
ABC-J	29点
強度行動障害判定表	14点
特性アンケート	8点
行動面の問題	人を叩く、衣類脱ぎ、破衣行為

要望、要求が通らない時には
粗暴行為（平手打ち、グーで
殴る等）、破壊行為（窓を叩
いて割る、扉を拳で叩く、衣
類を破る等）が見られ、要求
が叶うまで不穏状態が続く

事前評価 (スキュープロット)

<観察する行動>

×・・・衣服破り

※・・・服を要求

△・・・人叩き

▲・・・自傷

□・・・興奮

5 時

6 時

7 時

8 時

9 時

10 時

11 時

4 時

何故、破衣行為が起こるのか？

→特に朝の活動(ゴミ捨て、洗濯カート運び)前に頻発
朝食後から活動までの行動の流れを再確認！

×

△

×

×

△

□

×

▲

×

△

△

□

□

※

7月4日

7月6日

7月8日

7月9日

7月10日

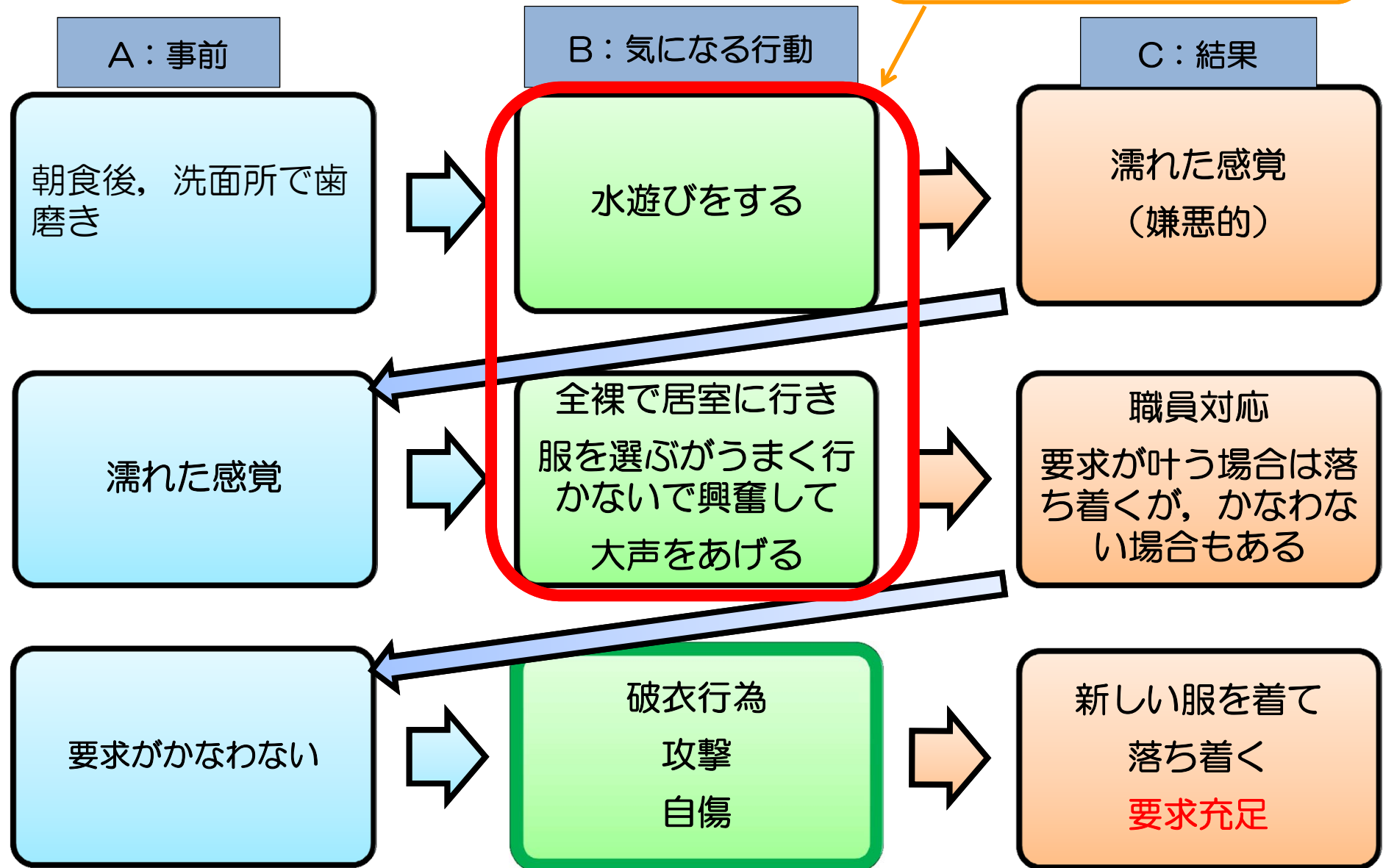
7月11日

7月13日

7月14日

事前評価（前兆となる行動の分析）

激しい暴力的行動の場合は
前兆となる行動を目標にする



行動の機能を分析する

- 機能分析をおこなうメリット
- 強化因の特定 行動がなぜ維持しているかがわかる
- 先行子操作 引き金となっている要因を取り除くことができる
- 消去 起こってもその行動を強化しない体制を整えられる
- 分化強化 起こさないことをほめることができる
- 問題行動に代わる適切な行動をとらえやすい。



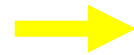
機能分析(行動を事前と事後の環境から見ていくこと)
によって同じ行動(例えば「奇声をあげる」)でも
状況によって、いろいろな機能を持つことがわかる

A事前

B行動

C事後

母が父親と
おしゃべり
注目なし



奇声をあげる



「静かにしなさい」
注目あり

一人で解けない
問題
困難課題あり

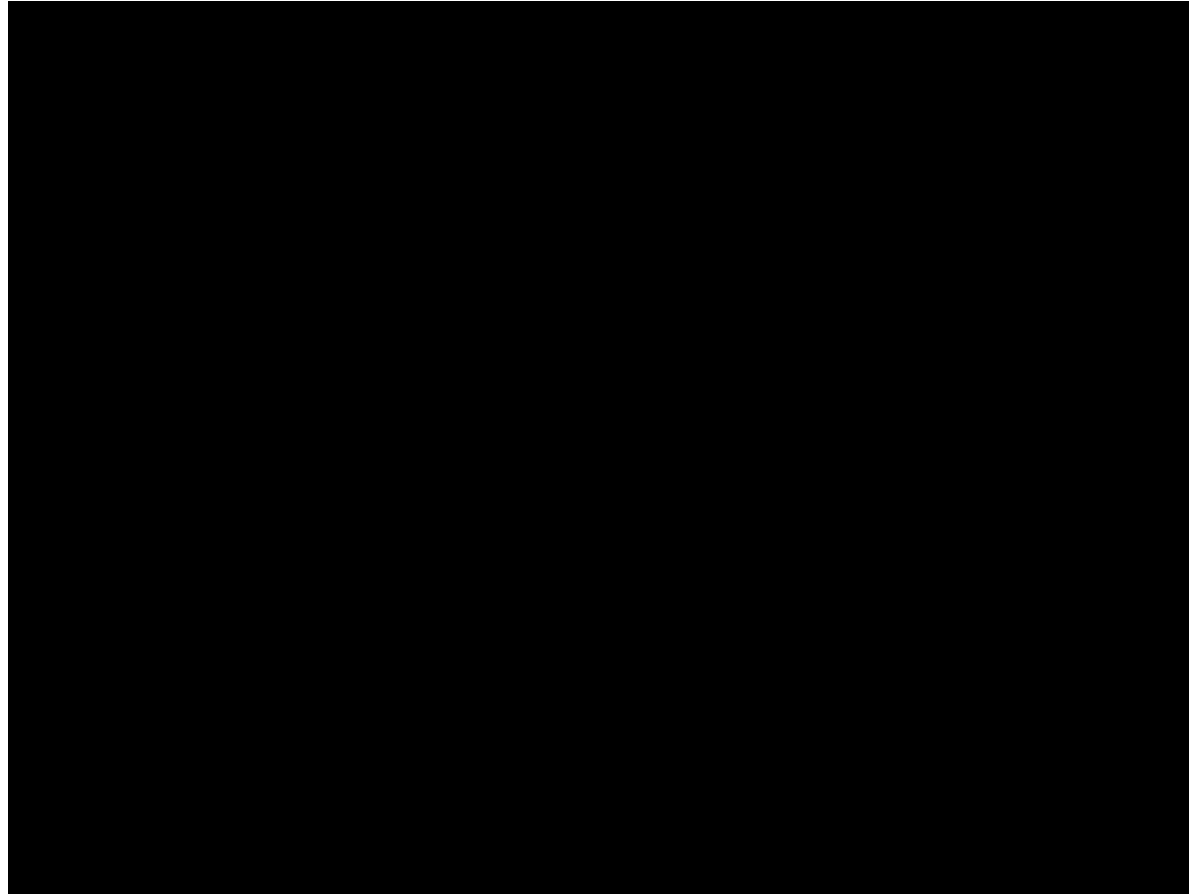


奇声をあげる



「外に出なさい」
困難課題なし

行動動機診断スケール (**MAS** Motivation Assessment Scale)



気になる行動を具体的に決め、前の状況を書き込んだあと、
結果のところで行動の意味がよくわからない時に使ってみましょう。

ポイント：考えられる仮説を列挙してみる

- 回避：(対象者にとってのマイナスの出来事)をしなくて
● すむ、受けなくてすむ
- 要求：(対象者にとってのプラスの出来事)ができる、し
● てもらえる
- 注目：(誰から?)の注目が得られる

- 感覚：(気になる行動)そのものの感覚を楽しんでいる
- × すっきりする
- ○ 大声を出したり聞いたりする感覚

特に強度行動障害のある場合は

- まずは問題行動をへらすことに支援目標をしぼりこむこと
- 徹底した個別支援と個別対応のできる環境とカリキュラムを整えること
- 問題行動が起こってからの対応を中心としないこと
- 記録をとって効果的なアプローチを継続すること
- 問題行動が消失後に徐々に集団に戻すこと

環境調整

- 刺激の調整
- 適切な明るさ、視野、毛布、帽子
- イヤアマフ、耳栓、防音設備
- ヘッドギア、パッドなど
- 壊れそうなものを撤去, 動きそうなものや家具などを固定



ノイズキャンセリング機能のついたヘッドフォン



環境調整(人的)

- 人のかかわり
- かかわりの距離や方向
- 声の大きさ、高さ
- 指差し、ジェスチャー
- 視覚的手がかりを利用
- 具体的で短い言葉
- 興奮状態の声かけ

環境調整(人的)

- 前もってスケジュールを示す
 - 具体物
 - 絵や写真
 - 文字
 - 文章
- タイミング
 - 興奮する前に
 - 提示するだけでなくポインティングをいれる
 - 直前直後にも
 - 終了時にもチェック
 - できたことを褒める

環境調整(活動設定)

- 時間、課題量、課題への興味
- ワークシステムの利用
- 休憩時間の設定、過ごし方、どこで、何をしてすごすのか

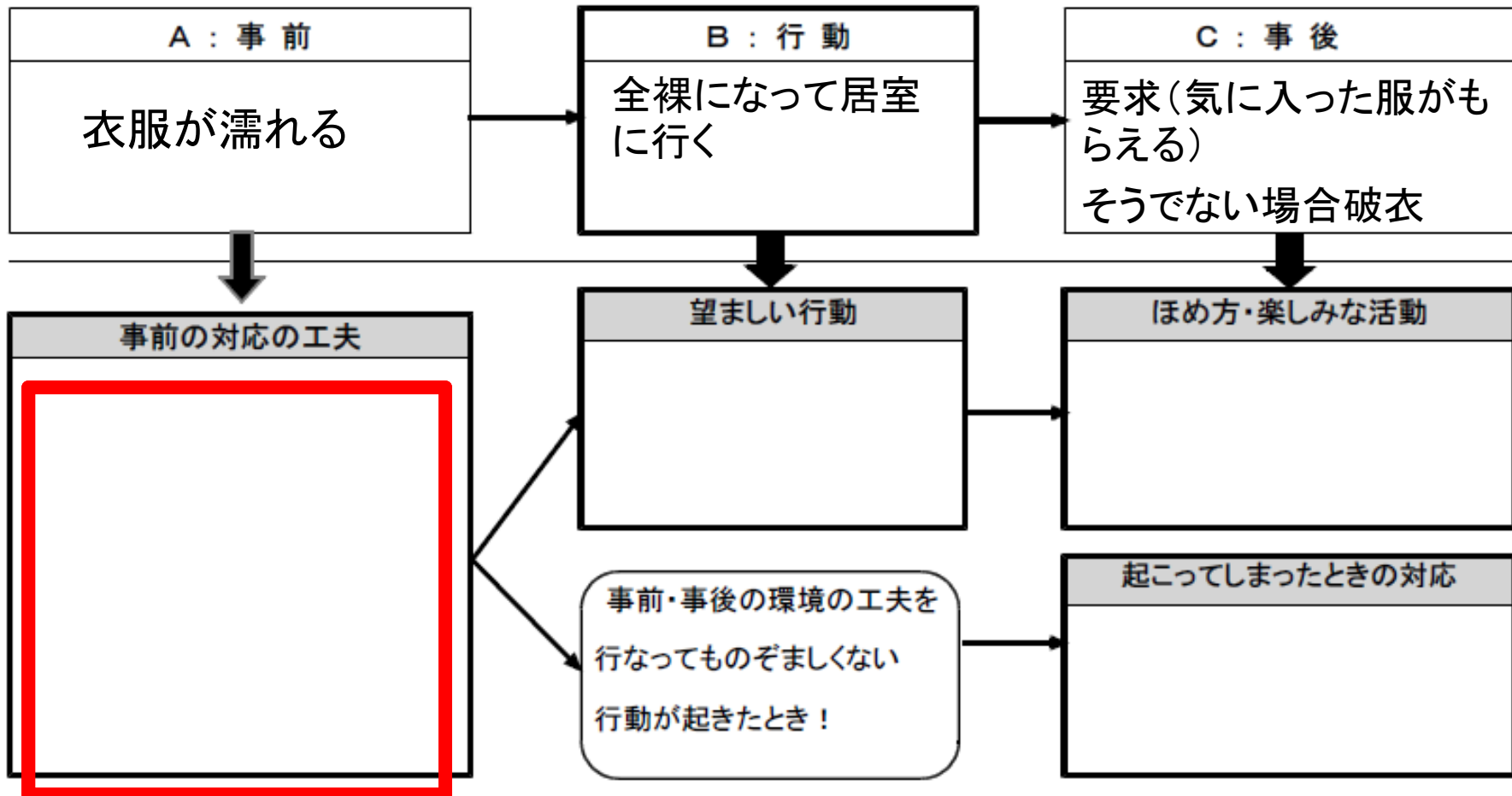
事前の工夫について

- ①事前に予定を視覚的に示す
- ②指示やルールを視覚的に示す
- ③気になるものがあれば取り除く
- ④本人の興味・関心のあるものを取り入れる
- ⑤課題や仕事の量、難易度をさげる
- ⑥事前に約束をする
- ⑦選択肢を提示し、本人に選択させる
- ⑧適切な行動をしやすい援助・支援ツールなど
- ⑨問題行動があっても、影響が最小限になるようにする

問題行動が起きやすい状況を整備して、問題行動が起きにくいようにする、より適切な行動がしやすいように整備することが大切です。

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 氏 名】

全裸になって居室に行く



できるだけたくさん考えましょう

担当者が一人で考えるのではなく、周りの職員とアイデアを出し合いましょう。

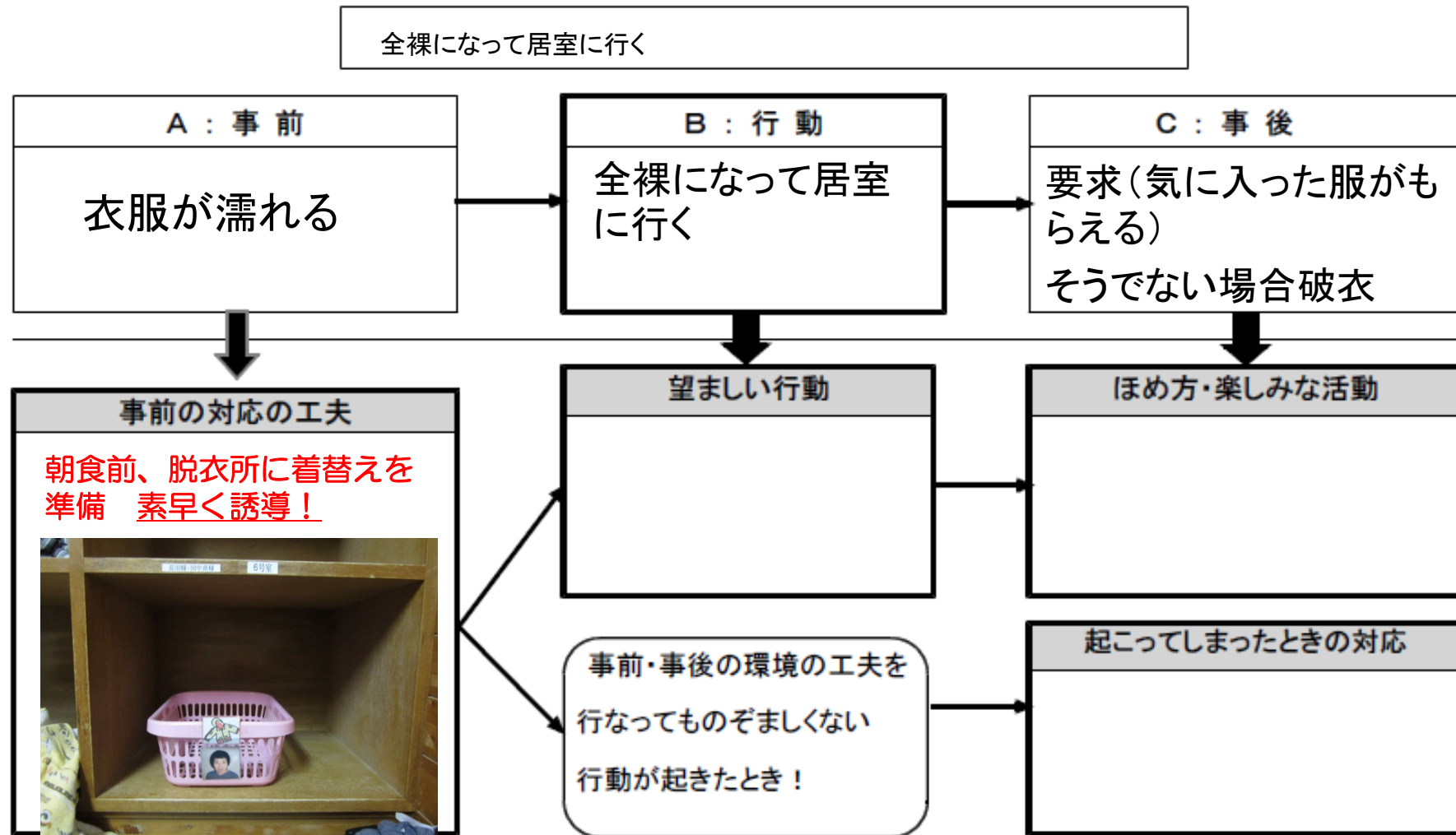
チームで考えたことは、子どもへの対応の共通理解にもつながります。

【話し合いのすすめ方】

- ・アイデアをとにかくたくさん出す。
- ・ひとのアイデアを批判したり、否定しない。
- ・価値観や実現可能性にこだわらない。
- ・突飛なアイデアも歓迎する。
- ・若手でも発言しやすい雰囲気をつくる。
- ・事例の担当者は後で自分が明日からでもやれそうなアイデアを実践してみる。

とりあげた事例の場合

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 】



- ・ * 望ましい行動を教えることのメリット
- ・ 問題行動を押さえ込むだけでは、別の不適切な行動が出現してしまう可能性もあります。
- ・ 代わりの行動を教えることで・・・
 - － 本人は、“叱られない”だけでなく、ほめられたり、みとめられるチャンスが増える
 - － 発達の可能性が広がる
 - － 社会性がのびる
 - － 良好な般化と維持が期待できる



代わりになる行動の決め方のコツ

- 1.「気になる行動」と両立しない行動
 - 例：電車の中で人をじろじろ見てしまう。
 - →()
- 2.「気になる行動」と同じ機能の行動
 - 例：休み時間遊んでいる友だちの髪を引っ張る。
 - 機能は？ 要求・回避・注目・感覚
 - →()
- 3. 簡単で対象の児童生徒ができる行動で、場面に沿う行動
 - ・ 例：授業中分からない時に奇声を発する。
 - →()

スモールステップでの目標行動



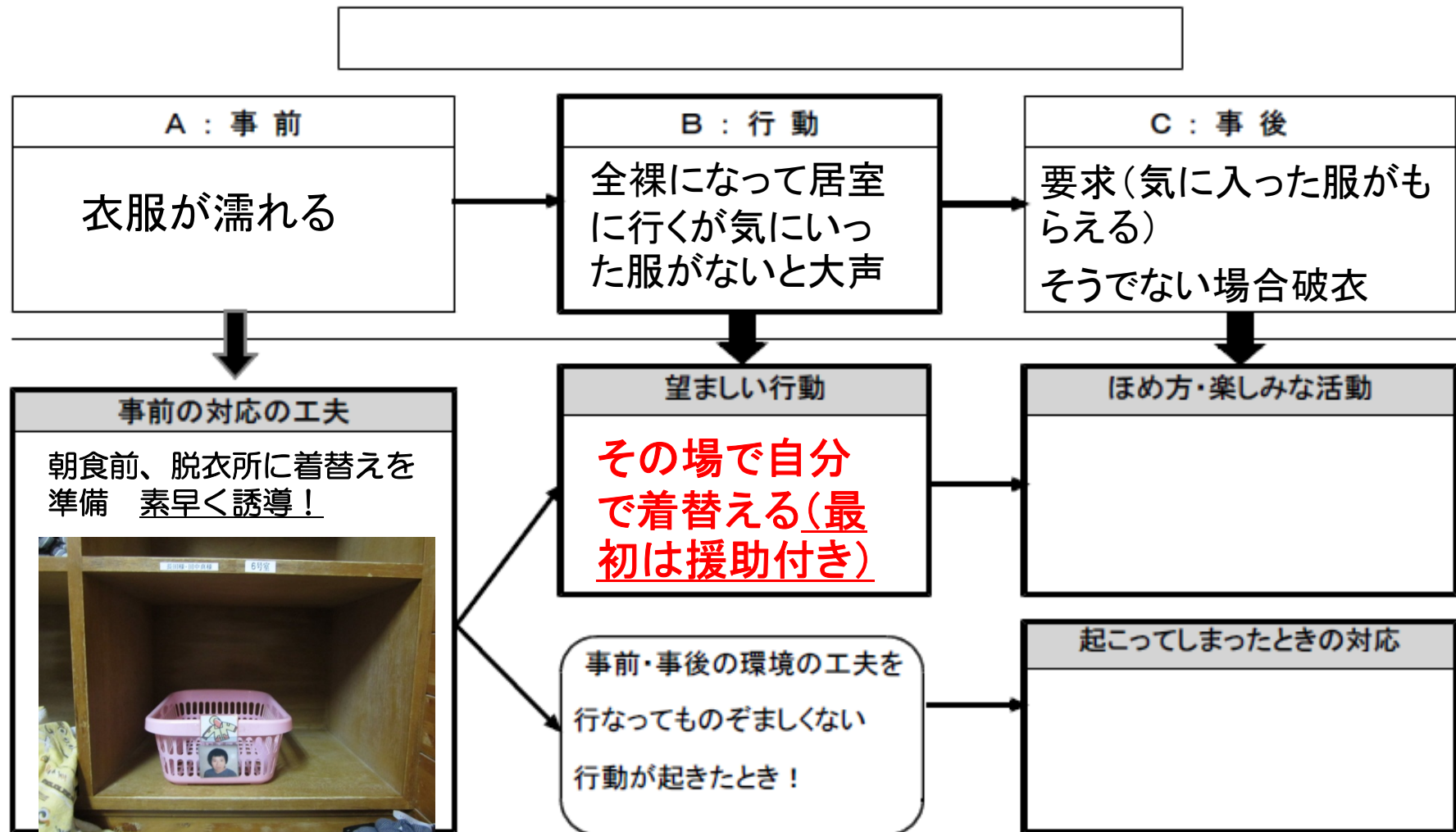
- 1. 行うべき事前の対応を決める。
- 2. 「望ましい行動」の最終目標を決める。
- 3. 最終目標の行動より少し簡単な行動から変化
• させる基準を出し合う。
• 一支援の量、本人が頑張る時間、課題の量など
- 4. 変化させるステップを具体化する。
• 一担任教師が「すぐにできそう！」と思ったもの
• から試すとやりやすいです。

望ましい行動を設定するときのコツ

◆観察や評価がしやすいことが大切です。

- ・具体的に書く
- ・本人の目標であること
(主語が本人であること、支援者が事前準備として
することと区別をする)
- ・目標を少しハードルをさげる。
すこしががんばればできるくらいの難易度に
設定する(達成感がもてるようにすることが大切です)。

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 】



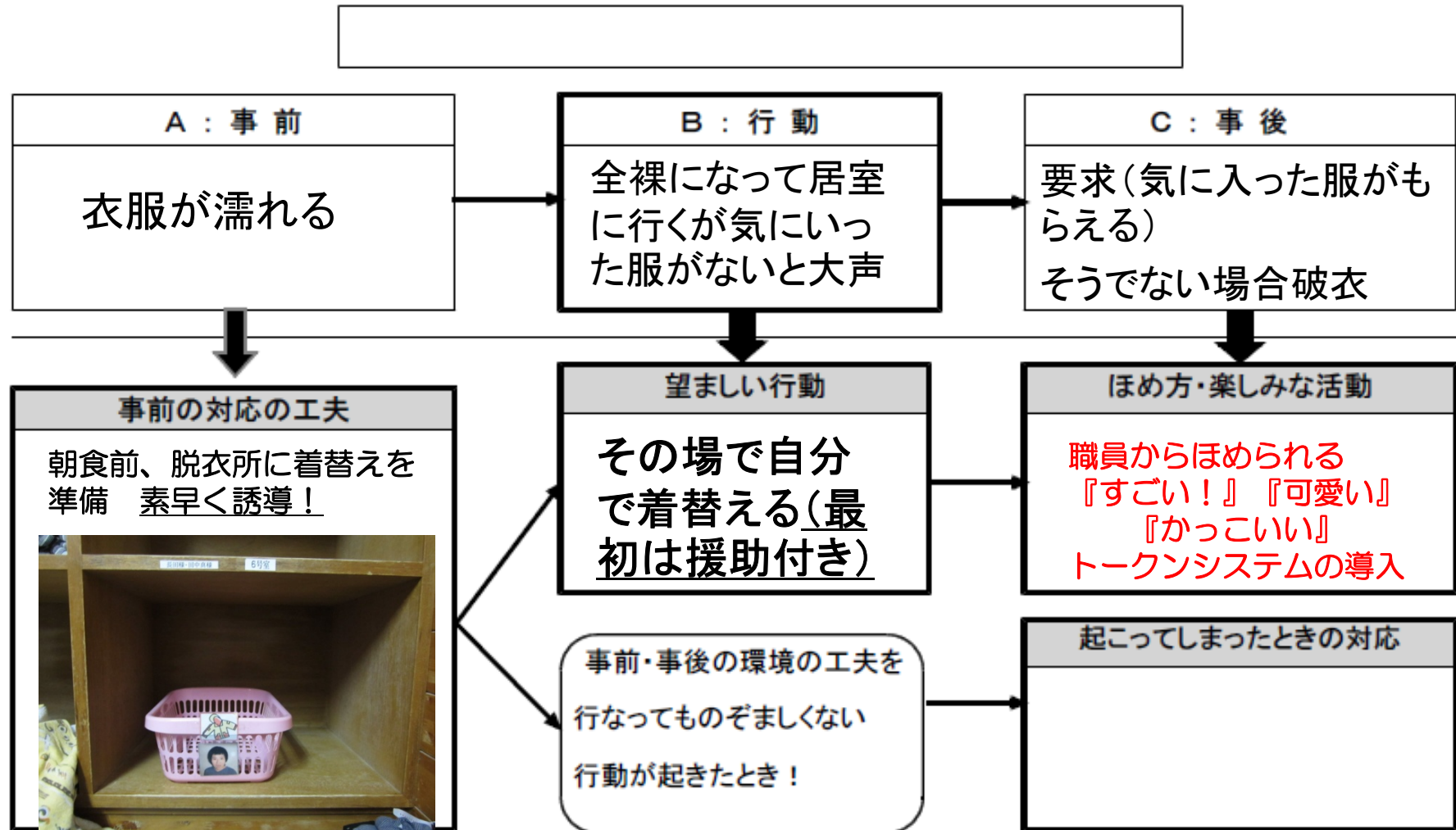
上手なほめ方のポイント

- ① 望ましい行動をしたすぐ後にほめる
- ② 具体的に何がよかったのかを伝える
- ③ 本人にあった言葉や表現を使う
- ④ 望ましい行動をしようとしたときにほめる
- ⑤ 問題行動をしていないときにほめる
-
-

トークンの具体例



ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 氏名】



起こってしまった時の対応

- 万全に準備していても、うまくいかないことが
- あるかもしれません。
- 問題行動の意図をかなえないように
- 対応することが重要です。
- 次は起こってしまったときの対応について
- 考えてみましょう。

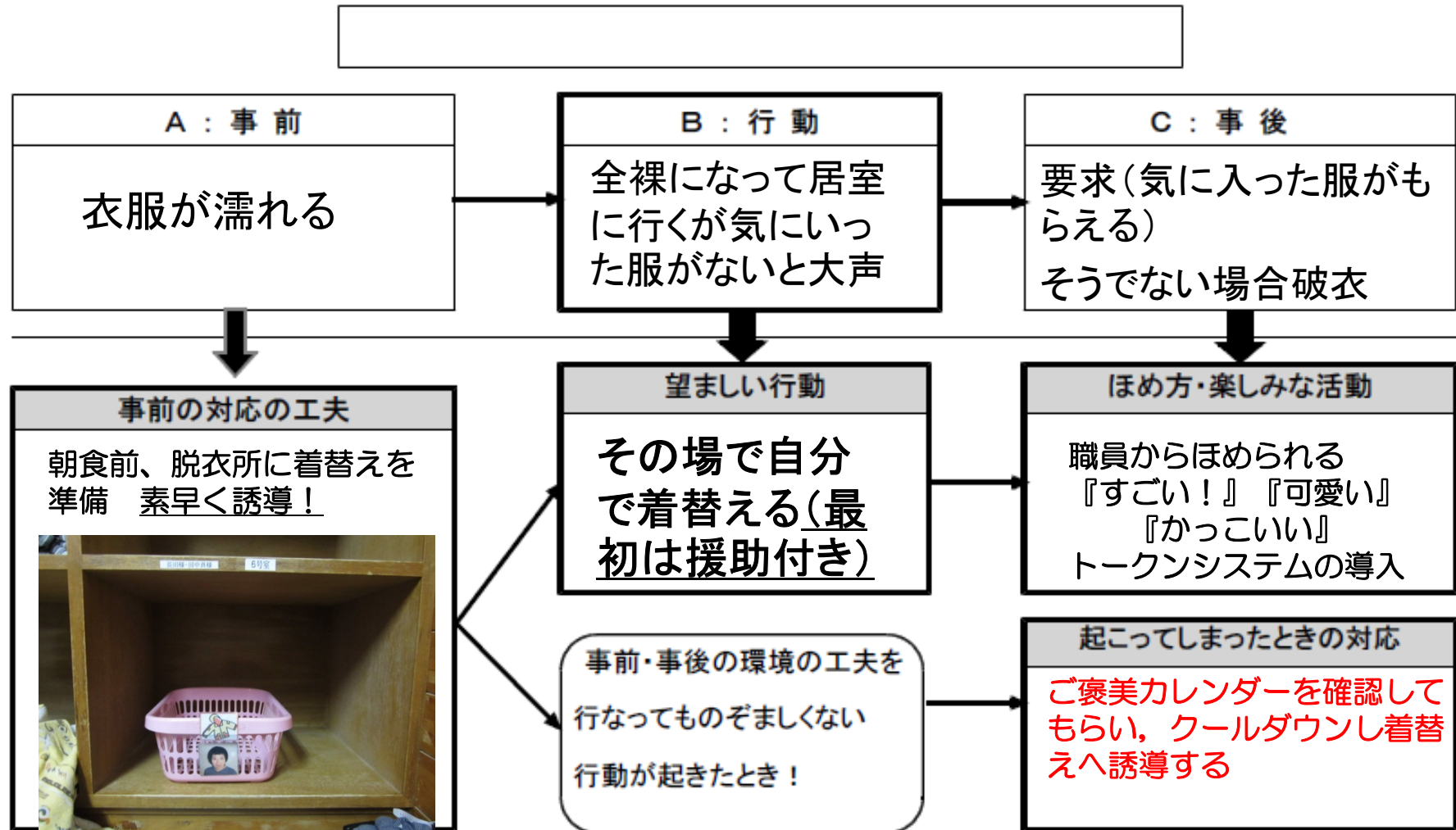
ストラテジー・シート ver. 3.0 【記入日 年 月 日】 【氏名 〇〇】

A : 事前	B : 行動	C : 事後
		回避 () をしなくてすむ 要求 () ができる・してもらえる 注目 () の注目が得られる 感覚 () の感覚そのものが楽しみ すべて記入しなくても良い
事前の対応の工夫	望ましい行動 最終目標 () ・ ・ ・ 事前・事後の環境の工夫を行なっても、のぞましくない行動が起きたとき！	ほめ方・楽しい活動 . . . 起こってしまったときの対応 成功に導く手だて クールダウンの手だて

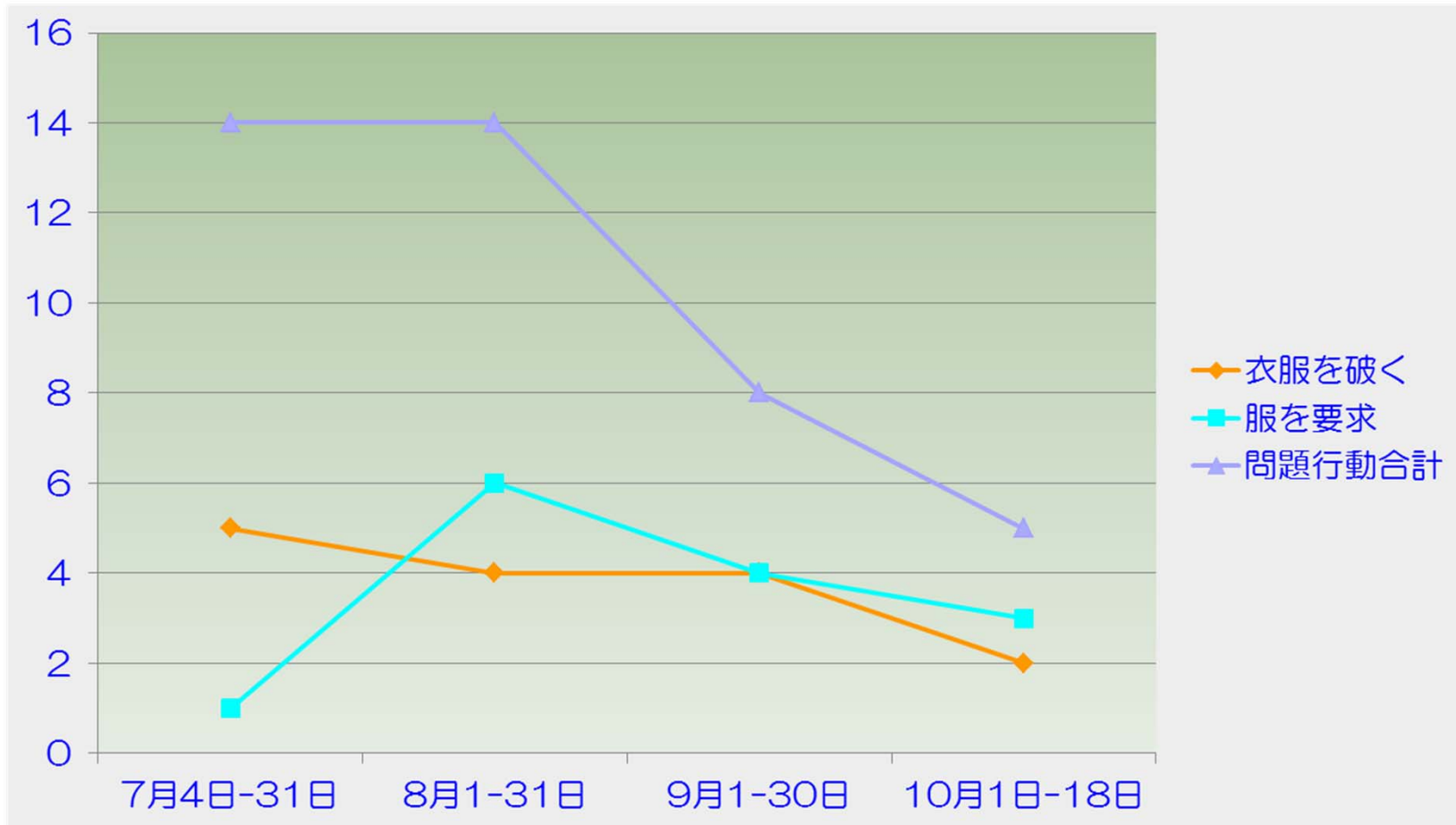
起こってしまったときには

- ・感情的にしかるだけではなく、どうしたらよいのかを
 - 具体的に教える
 - たくさん声かけなどはせず、さらに興奮がエスカレート
 - しないように気をつける。
- ・興奮をコントロールさせる
- ・クールダウンさせる
- ・場所を変える
- ・援助つきでもよいので少しやらせてほめる
 - （回避の意味合いの行動の場合は特に重要）

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 氏名】



- 実際の行動記録の変化（回数）



行動変化への職員の感想

- 初日から『カゴの服に着替えて下さい！』の声掛けだけでスムーズに更衣可能になった
- 職員がカゴを置き忘れてしまったときに本人から『カゴ！』と要求ができ、更衣ができた。
- 言ったら解るようになった
- （『これは〇〇さんのです』と伝えて納得される）
- 以前より難しい人ではなくなった
- 興奮して要求を通そうと言う事があまり見られなくなった
- 多少は待ってもらえるようになった（20分以上）
- 要求を通そうとして服を脱ぐ事がなくなった
- 利用者への見方も変わっていくとさらに良い支援が

記録をもとに次に生かす、繋ぐ

- 「事前の工夫」や「結果」は機能していますか？
- 「望ましい行動」で選定した目標を見直す
- 設定したステップ(目標)を下のステップに設定し直し、援助して成功体験へと子どもを導く。
- 記録をもとにしてその人に最もあった支援のフィッティングを考え、引き継いでいきましょう。

家族の心理状態と支援の必要性

- 親の半構造化面接より
 - 「自傷・他傷のことを思い出すと今でもしんどくなる」
 - 「母親にだけ暴力をふるう、周囲や先生から『甘やかし』といわれ、責められて苦しくなった」
 - 「通えるところ、入所施設、病院ともに断られて途方に暮れた、子どもを殺して死のうと考えた」
 - 「隣の市では行動援護の支援がかなり利用できるが、自分の市では軽度の人と同じ、分かってもらえない」
 - 「施設で暴力的な扱いを受けたが、抗議できない雰囲気、預かってくれるところは他にない」
- 強度行動障害を介護する家族に対する支援研究はほとんどなく、大きな課題と考えられる

行動障害に対して必要なこと

- 先送りしない、早期介入
- 行動の具体化
- 行動観察
- 機能分析(ストラテジーシート)による問題点の整理
- 実施と振り返り
- 家族支援
- 一貫した継続的支援